虔十公園林とは

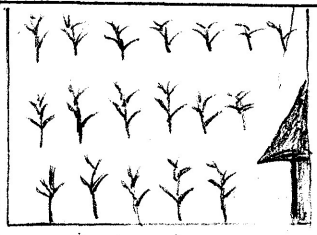
いつもばかにされていた虔十が、家のうらの野原に杉の苗を植えました。その杉林は子供たちのよろこびになりました。そして虔十は病気にかかり死んでしまいます。その後、村の畑や田はつぶされ村に町になります。はたして虔十の杉林は……

作品のあらすじ

虔十はいつも鳥や木を見て笑っているので子供たちからばかにされていました。

そんな虔十が家のうらの野原に杉の苗を植え育てます。この杉林は子供たちのよろこびになりました。だけど虔十は病気で死んでしまいます。そして村人畑や田はつぶされ、村は町になりました。だけど虔十の杉林はなんとかたみと守ってくれました。

そしてこの杉林は子供たちの美しい公園地になりました。そしてこの公園地は、虔十公園林と名をつけられいつまでもこの通り保ぜんされるのでした。



虔十公園林

心にのこった場面

私が心にのこった場面は、虔十の杉林が村の人に守られ公園地になった場面です。理由は、最初はみんな、あんな野原にうえるなんてとバカにしていたけど最後はみんなに守れて、そして公園地として、いつまでもこの通り保ぜんしようと大切にしてくれたからです。

作者が伝えたかったこと

この作品で宮沢賢治が伝えたかったことは、森林は大切にしなくてはいけないということと、かしこい、かしこくないをいっしょにしてはだめだっていいんだということだと思います。

コメント

この本を読んで、この本に出会えて良かったですね。私は、かしこくなくても、バカにされてもすごいんだということが分かりました。そしてすべての人に良さがあることが分かりました

その家族の気持ちの優しさに温かくなりました。今は、何かと慌ただしい世の中です。偏見にとらわれず、自分を見失わずにしっかりと探してみて下さい。

母